



「辻よし子と歩む会」ホームページ  
[http://www.geocities.jp/yt\\_ayumukai/](http://www.geocities.jp/yt_ayumukai/)

# 辻よし子と歩む会

「辻よし子と歩む会」

☎ 197-0804

あきる野市秋川 4-1-6-103

電話：090-2258-8691

FAX：042-550-3646

e-mail：kusasigi@nifty.com

共同代表：柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすませ、大きな力にひるまず  
コツコツと手作りの政治を！

## みんなが望む「緑と水が豊かなまち」あきる野



野山で子どもを遊ばせたり、木立の中を散策したり……。あきる野の豊かな自然環境は、私たち大人と子ども、そして未来の子どもたちの宝です。

あきる野市がおこなった「市民アンケート調査」によれば、「あきる野市をどんな町にしたいか？」という問いに「緑と水が豊かなまち」という回答が、いつも上位に入っています\*1。

また、市内には「森っこサンちゃん」\*2として知られるトウキョウサンショウウオをはじめ、絶滅に瀕している貴重な生き物たちが、今も、私たちの身近で暮らしています。

## 見直しませんか？「開発」路線

この10年を振り返って、これまで親しんできた身近な自然環境が変わってしまったことはありませんか？いつの間にか樹木や竹林が切られて、道路ができたり、宅地が造成されたり……。市内には、まだ、これから建設されようとしている道路が何本もあります。その中には、40年以上も前に計画された道路も少なくありません\*3。また、今後、工場や住宅地として開発が計画されている場所が20か所以上もあります\*4。



## まずは、知ることから

将来にわたって、あきる野が「緑と水が豊かなまち」であり続けるためには、今後予定されている開発計画について、本当に必要な事業は何か、もう一度市民の目で見直していくことが大切です。

そのために、まずは開発計画の中身についてみんなで知ることから始めなくてはなりません。情報を集め、話し合いの場を持ち、行政に提案していく上で、大きな役割を果たすのが市議会議員です。



\*1 「市民アンケート調査」(H19~23) 参照 (あきる野市 HP よりダウンロード可)  
\*2 「郷土の恵みの森づくり」を推進するため公募により選ばれたトウキョウサンショウウオのキャラクター  
\*3 「あきる野市都市計画図」(H16年) 参照 (市役所で販売)  
\*4 「あきる野市土地利用方針(H24. 11月)」P20 参照 (あきる野市 HP よりダウンロード可)



# 政治はもっと身近

## じゃなくっちゃ!

日ごろ遠くに感じてしまいがちな政治。でも、政治は、私たちの暮らしにとって重要なことが決まっていく場です。「えっ、なんでこうなったの?」とならないよう、私たちはもっと政治のことを知らなくては……。そのために、まずは市民の立場から市政の情報をわかりやすく発信する草の根市議が必要です。

# 原発のない、のびやかな 社会を子どもたちに



原発は、便利さや利益ばかりを求める大量消費社会の象徴と言えるかもしれません。経済成長を追い続けるのではなく、身近な自然や「いのち」の繋がりを大切にできる社会へ……「豊かさ」のものさしを見直しませんか?

都内において森林や農地が多く残されたあきる野市には、多くの可能性が秘められています。



## 辻よし子プロフィール



1960年 国分寺市生まれ。大学院卒業後、小学校の教員に。子どもたちと畑を耕したり、子豚を学校に連れてきたり、ユニークな教育実践をおこなう。

タイの村の子どもたちとの出会いをきっかけに、2年間個人ボランティアとしてタイの農村へ。帰国後に結婚。日本とタイを行き来しながら、教育をテーマに交流活動に取り組む。

1995年、あきる野市へ転入。1997年、長男の出産を機に日本での生活に比重を移す。近隣の母親たちと子育てグループ「野戯の森」を作り、大澄山や平井川で自然遊びをおこなう。

2000年、友人たちと「川原で遊ぼう会」を立ち上げ、平井川で自然観察会と環境保全のための活動を始める。

2011年、福島原発事故に衝撃を受け、「さよなら原発~にしたま~」、「チャイルドのネット(放射能汚染から子どもを守

るあきる野ネットワーク)」を立ち上げ、活動を始める。

2002年~2012年 老人介護施設で働く

2000年~現在 平井川流域連絡会委員

2009年~現在 あきる野市自然環境調査員

<著書>

絵本『季節はめぐる ~3.11後を生きる里山の<いのち>たちへ~』

(2012年 「戦争と性」編集室)

『タイ教師と見た夢の国ニッポン』

(1994年 ビジネス社)

『ネイチャーゲーム原典 シェアリングネイチャー』(共訳)(2012年 日本ネイチャーゲーム協会)



# 政治にもっと女性の声を



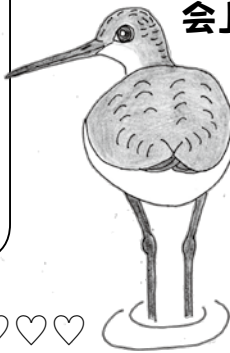
社会の半分は女性。なのに議会における女性の割合は驚くほど少ないのが現状です。子どもやお年寄りが暮らしやすい、やさしい町を創るためには、女性の視点も欠かせません。

## 小さいところ、 弱いところから



子ども、お年寄り、女性、障がい者、外国籍の人、<sup>マイノリティー</sup>性的少数者……小さな声を大切にできる社会は、たとえ効率は悪くても、心の豊かさや精神的な質を高める社会です。子育てや介護の問題を<sup>マイノリティー</sup>少数者の視点から考えていきませんか。

## 「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」は、辻よし子さんを応援しています。



自然豊かなこのあきる野で、辻よし子さんと出会ってから15年。お互いの子どもたちを自然の中で遊ばせながら、彼女から学んだことはたくさんあります。"里の良さ"を壊し、見た目の豊かさを追求する従来の市政。彼女と共に"子どもと自然に関わる活動"をする中から色んなことが見えてきました。"無くす"ことは簡単です。それを"残す"ことで次世代に本当の豊かさを伝えることで未来の子どもたちの幸せを本気で考える 辻よし子さんは素晴らしい女性です。(「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」 田中直子)

## 辻よし子から一言

今、中3と小5になる二人の息子たちが小さいころ、しょっちゅう平井川や大澄山に連れて行って遊びました。子どもは自然の中で遊ばせるのが一番! おもちゃがなくても、土と水があればいつまでも飽きることなく遊びます。魚や虫が見つければ、もう夢中!

私自身は、大人になった今も自然が大好きで、週に1、2回は近くを流れる平井川に行つて自然観察をしています。

この自然を、いつまでも大切に守り、孫、<sup>ひまご</sup>曾孫、<sup>やしやご</sup>玄孫の世代までずっと残しておきたい……そのためには、どうしたらよいか、みんなで知恵を出し合つて考えていきたいと思ひます。